

令和5年度第1回羽島市障害者計画・障害福祉計画策定委員会 議事録要旨

- 1 日 時 令和5年8月22日(火) 13時30分～
- 2 場 所 羽島市役所 4階 406会議室
- 3 出席者

羽島市自治委員会連絡協議会	金森 更二
羽島市社会福祉協議会常務理事	伊藤 克巳
羽島市身体障害者福祉協会会長	森 重雄
羽島市障害児を守る会会長	馬場 まさ子
羽島市手をつなぐ親の会理事長	川尾 こず枝
羽島市民病院 社会福祉士	勅使川原 未央
羽島市民生委員児童委員協議会会長	浅井 廣志
社会福祉法人岐阜羽島ボランティア協会理事長	川合 宗次
羽島市発達支援センターもも管理者	永納 香子
公募委員	伊藤 文代
公募委員	太田 富美子
- 4 議 題
 - (1) 計画の概要及びアンケート調査結果について
 - (2) 羽島市障害者計画に係る体系について

《議題1》 計画の概要及びアンケート調査結果について

【委員】 アンケート調査において、サポートファイル、障害者差別解消法、福祉サービス等について、知らない方が多い結果となっているが、どのように対応されるか。

【事務局】 施策の方向性については、次回の委員会にてお示しをする予定です。

《議題2》 羽島市障害者計画の体系について

【委員】 「防犯・防災対策の整備」のうち、「避難行動要支援者名簿」について、知らない方が多いとの結果が出ているが、民生委員であっても個人情報の保護の観点もあり、市から個別の情報を提供いただけないため、現状では認知は進まないのではないか。

具体的な周知の方法を考えていく必要があると思う。市の方から、対象者に対して通知等を送るなどの方策はとれないだろうか。対象者は高齢の方もいらっしゃるので、インターネットやHPだけでなく、その他の方法も考慮いただきたい。

【事務局】 根拠となる法律が変わり、現在は名簿の対象となる方については、機械的に抽出し登録されている。現在個別計画の作成について、民生委員を含め各町において進めている状況である。施策の方向性については、次回の委員会にてお示しする予定である。

【委員】 コロナ禍において、民生委員等の活動について制限があった。委員の交代もあったことから、人材育成の意味でも研修会等を行うなど、個々のスキルアップができると良い。

【委員】 ヤングケアラー等の支援にあたっては、民生委員の役割が大きいと考える。民生委員自身に民生委員本来の役割を改めて理解いただく必要がある。

関連して障害福祉サービスについては、2年程前から居宅サービスにおいて、障がいのある親がやるべき、家事等を含めて居宅サービスで対応できるようになった。これは障害福祉サービス独自であり、画期的なことであるためそういった情報も広く知られると良いと思う。

【委員】『入所施設における地域生活支援機能の充実』や『施設入所サービスの充実』といった表記があるが、ずいぶん前から GH に限らず、地域での多様な住まい方の整備に係る方策が進められており、当該表記は施設入所を勧めているような誤解を与えかねないため、表記方法を改めた方がよい。

【委員】「福祉避難所」については、まず一次避難所に避難し、そこで支援が必要な方が二次避難所である「福祉避難所」に避難するという流れであったが、対象者が直接「福祉避難所」に避難するという流れに変更となった。市と受け入れる施設側において、どのような流れ・形で避難するかを整理する必要がある（仕組みづくり）。

【委員】障害者雇用に関連して、雇用助成金という制度があるため、障害者手帳所持者はまだ就職しやすいが、診断名はあるが手帳は無い（いわゆるボーダー）方については、特に就労が厳しいためそういった方にも支援が必要であると考えている。そういった方を含めて計画に記載をしていただきたい。就業・生活支援センターについても、障害者手帳がないと支援の対象とならない。

年金等からも漏れるため、より支援が必要な対象となりうる。

【委員】人材育成に関連し、ボランティアや NPO の活動支援として、羽島市においては従前あった市民活動助成金が数年前になくなった。他の市においては、大体ある。ボランティアや支援を行う人や団体が少ない理由として、そういった支援が弱いと感じるところである。

個々では支援を行っている人はいらっしゃるのですが、そういった方のネットワークができると良いと思う（社協に期待したい）。